

(1) 高志会



写真提供先 館合新田若獅子会

由利本荘市議会議員

会派報

高志会

第2号

発行日 平成26年9月9日
発行責任者 伊藤順男
〒015-8501 由利本荘市尾崎17
由利本荘市役所 4階議会事務局
TEL0184-24-6385・FAX27-1793

地域分権と 議会存立の意義

高志会 会長 伊藤順男

我が市においては地域分権の流れを加速させ、より市民の満足度を高めるための行政運営が求められています。こうしたことを兵庫県朝来市では、平成17年4町での合併から今日まで行政運営の柱に据え「住民に身近な事業等については、住民が自ら決定」により行政と責任の分担、併せて協働型社会を推進しています。

さて、こうした流れは住民と当局（執行機関）が意見集約から企画立案、事業実施、事業に対する評価までの一連をサイクルとして完結の状態を生みだす流れ（成熟した社会での住民自治）でもあります。そうした完結の状態の中で「議会のチェック機能や政策立案」などをどう発揮していくかが議会に問われています。いわゆる議会の存立の意義が問われていると言っても過言ではありません。私共会派は、市民ニーズや意思を市民目線で把握し「チェック＆バランス」を基調に大所高所から市政に反映することで議会存立の意義を高め、最も市民に近い自治体の役割でもある住民福祉向上に努めるものであります。そうした意味において市民各位のご助言ご指導をお願い致します。

メンバー紹介

いとうよりお伊藤順男



■ 会長
● 総務常任委員会
● 議会運営委員会

攻めの姿勢で「健康長寿日本一」

忙しく景気が良い時には少しく健康を害しても気にかけずに働いていたのが、景気が低迷すると気に掛かるのが自分の健康で守りの姿勢に。これが仕事の一線から身を退くと更に強くなる傾向と言われます。さて、我が由利本荘市は、3人に一人が65歳以上の人口構成でこれが今後更に進展します。健康日本21の長寿キーワードは『骨年齢・血管年齢・腸年齢』と謳っています。これを鍛えるには元気で活動（働く）。すなわち「65歳以上の方が地域の活性化に寄与」と考えます。攻めの姿勢で「健康長寿日本一」の地域を目指すというものです。

さとうけんいち佐藤賢一



■ 副会長
● 産業経済常任委員会

今、始まった事ではない、市の課題である少子高齢化に伴う人口減、安定した雇用場の農村集落の維持を含めた農業問題等、市民がそれぞれの地域で、将来、今より安心して暮らせる由利本荘市創造の課題克服に取り組み本気度を出せるのか試されている。努力をしていく、その為には市民皆さんの英知を頂き頑張っていきたい。

たかはしのぶお高橋信雄



■ 副会長
● 建設常任委員会
● 国療跡地活用特別委員会

雇用の確保、創出が優先課題。

少子化、過疎化、人口減少、高齢化などいずれの問題にも雇用状況の改善は最優先課題となる。農業において大規模化と雇用対策は切り離せない。

地域を守る産業を大切にしたい。

わたなべせいいち渡部聖一



■ 幹事長
● 教育民生常任委員会
● 議会運営委員会
● 国療跡地活用特別委員会委員長

もつと熱くなれるか

夏の甲子園予選が繰り広げられていた「こまち球場」の隣の「県立総合プール」では、時を同じくして県中学校総体と東北高校総体の水泳競技が2週間にわたって開催された。水泳漬けだったが、若いアスリートの躍動感と、応援などの熱気を十分感じとった2週間でもあった。喜びも悔しさも感動も、それまでの過程が重みとなって現れるのだろう。課題解決、好結果に導くためにはもつと熱くなれ、と振り返りと反省の2週間でもあった。(7/25記)

みなとたかのぶ湊貴信



■ 会計
● 産業経済常任委員会
● 議会報編集特別委員会委員長

議会報編集特別委員会が新体制となり、私が委員長を拝命したことを機に、内容を刷新しました。表紙のデザインをより明るく今流行に（笑）、子どもたちが書いたイラストを掲載し、新たに表決一覧や常任委員会ごとのページを追加するなど、「より見やすく、わかりやすく」をモットーに委員全員で頑張っています。**ぜひご覧下さい！**

■ 印：会派役員 ● 印：市議会委員会・アイウエオ順

メンバー紹介

●印：会派役員 ●印：市議会委員会・アイウエオ順

つちだよしちろう
土田与七郎



■ 監事
● 建設常任委員会

次期総合計画に注視

平成二十七年年度から十年間の次期総合計画が今年度中に策定される。これは、市民が安心して住み続けられるために市が目指す「まちづくりビジョン」である。したがって、この計画には確固たる政治理念に基づき、十年先を見据えた明確な将来ビジョンを打ち出す必要がある。市の目指す、また進むべき方向が示され、理想論に終わる事なく、そこに前進させるための具体的な計画を当局、議会、市民が共有し、実践出来るものでなければなりません。市の全体的な発展を視野に、議会で十分に議論してまいりたい。

かじわら りょうへい
梶原良平



● 教育民生常任委員会

地域でのサロン開催について

年齢や性別に関係なく、誰もが気楽な気持ちで参加し、日頃思っていることを話し合える雑談会の場、私達のサロンについて述べます。100世帯程の地域ですが、3ヶ所の集会所でその地域の方達が輪番で毎月1回地域サロンを開催しています。市の出前講座を受講したり、生活習慣病予防についてや血圧測定については、都度保健師さんをお願いしています。認知症サポーター養成講座も受講しました。参加者は20人程ですが、やがては人の世話になる時が多くなります。「いつかは通る道」を合い言葉に自分の地域でのサロン開催時にはなるべく都合をつけて参加し、自分の意見を述べ、お互いに協力していくための地域サロンでありたいと思っているものです。

たかはし かずこ
高橋和子



● 教育民生常任委員会委員長

農村は民族の揺籃

私達が学校教育を受けるときは、常に都会の学校が教育レベルが高く中学の時に転校したりしたものでした。今は全く逆転し田舎の学校が全国一になりました。今こそ田舎の良さを認識し、「少子化日本一」返上に力を合わせましょう。「農村は民族の揺籃（ようらん）」であることを肝に銘じて。

ながぬま ひさとし
長沼久利



● 建設常任委員会委員長
● 国療跡地利活用特別委員会

物語をかたり直す

「人口減少」は地方の衰退・消滅…。と切迫した問題を提起しています。今、何をすべきか。医療や臨床心理の世界で使われる「ナラティブ・アプローチ」（患者の主観を含めた全体性を重視する）、つまり、地域の人々がそれぞれの「物語」をかたり直すことで良さに気づくことであります。それはいや応なしの行政の役割の変換であり、地域の自立性と創造性の向上を促しているということであります。手腕が試されます。

むらかみ とおる
村上亨



● 総務常任委員会
● 議会運営委員会委員長

座して死を待つ訳にはいかない

人口減少少子高齢化と正面から向き合い、危機感を共有する中で、国には定住の為の環境整備を実現してもらおうと共に、私達は自立し、お互い知恵を絞り協力し合って、地域の再生を図ることが肝要と感じております。

地域コミュニティが秋田を変える

平成26年5月21日(水) 安楽温泉 講師・由利本荘市副市長 小野 一彦氏

●**県庁の集落対策専門部署「愛称・元気ムラ支援室」**
平成21年度に「活力ある農村集落づくり推進チーム」として発足。足元のきっかけは過疎化、高齢化による集落機能の衰退。

●**地域コミュニティとは**
27000/35000≒80%
阪神淡路大震災における要救助者のうち家族や近隣者に救出された人約27000人。全体の約80%にのぼり災害時における共助の役割、コミュニティの重要性が再確認。

●**「愛称・元気ムラ支援室」のコミュニティとは**
そこに住む人一人ひとり(各家庭単位でなく)が生きがいと役割を持ち、主人公として活躍する舞台装置が用意されている仕組み。

●**町内会・自治会の変遷**
西暦652年(今から1360年前)中大兄皇子の大化の改新の一環として制度創設。5戸まとめて「保」とし、保長が責任者となって相互扶助・治安・徴税などに関して連帯責任を負う(相互監視機能)。
※1597年豊臣秀吉「五人組」の制度を京都で創設。
※明治の大合併で町内会等の形でコミュニティとして存続。
※1943年町内会等は市町村制の中心として法的に位置づけ、市町村長の許可を得た場合には財産の取得可能となった。

●**高度経済成長以降のコミュニティ政策**
1969年国民生活審議会調査部会の報告・定義「コミュニティとは「生活の場において市民としての自主性と責任を自覚した個人及び家庭を構成主体として、地域性と各種の共通目的を持った、開放的でしかも構成員相互に信頼感のある集団」と定義。

●**地方自治体のコミュニティ政策とコミュニティの現状**
※1991年・自治法改正により町内会が法人格取得して団体名義での不動産登記ができるようになる。
※2000年・日本都市センターが全国の市を対象に調査したところコミュニティ政策を実施している市は全体の72%。

◎「主人公は市民」… 自分の自治

●**コミュニティの環境変化**
1995年・阪神淡路大震災の発生とその環境
※行政に頼るだけでは、十分な防災・救助活動ができない。
※コミュニティが機能しているところとそうでないところで災害救助やその後の避難所運営等において大きな違いがでた。
※1995年は「ボランティア元年」といわれる。□町内会のコミュニティの重要性が改めて認識。

まとめ

1. **地域コミュニティとは何か?**
 - ・個々の住民同士に信頼関係が構築されている
 - ・個々の住民が生活を通じ目標を共有し、その達成のために力を合わせる集団
2. **住民参加の機会や場をいかに準備することができるかが重要**
3. **目標に向かって個々が力を合わせて行動する組織力=チーム力が強くなっている。**
 - ・(余暇、レク、運動会が見直されている
→ 都(東京)の産労総合研究所の調査結果より
4. **地域コミュニティが減災力を育む**
 - ・一緒に運動会に参加すること等が住民個人々々をつなぐ…

会派タウンミーティング 大内地域で 初の開催

議会や会派の活動報告と、市民の皆さんから様々な意見を伺いながら今後の活動に生かしていこうと、会派「高志会」としては初めてのタウンミーティングを6月28日、大内地域のJAMÉで開催。平日の夜の開催にも関わらず、地域からは約60人の皆さんから参加をいただきました。
はじめに会派結成理念や行動方針について説明した後、今年度の市の主要事業内容について各常任委員会担当から報告。また、平成27年度からスタートする市の新総合計画策定に係る市民アンケートの結果について説明しました。
これを受け参加者からは、タウンミーティングの持ち方や、地域で進められている小・中学校の統廃合等の各地域課題への議会の関わり方、廃校舎の利活用の仕方などが提言されました。
会派では、これらの提言や意見を今後の活動に生かすとともに、市民の声を市

市民皆様の声をお寄せ
ください。

▶お手紙・ハガキで…
〒015-8501 由利本荘市尾崎町17
由利本荘市役所
4階 議会事務局
▶FAXで…0184-27-1793
※お電話では受付けておりませんので
ご了承下さい。



に届け市政に反映されるよう、パイプ役としてより身近な、より開かれた議会、会派になるよう努めて参ります。
今後も、地域や町内会など、どんな単位でもタウンミーティングを開催したいと考えており、準備等は当会派で行いますので、ご希望がありましたら、当会派議員に気軽に声をかけてください。